

No. 59 pp.1094-1120

20-III-1991

# 寄世蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Kontyū Danwakai

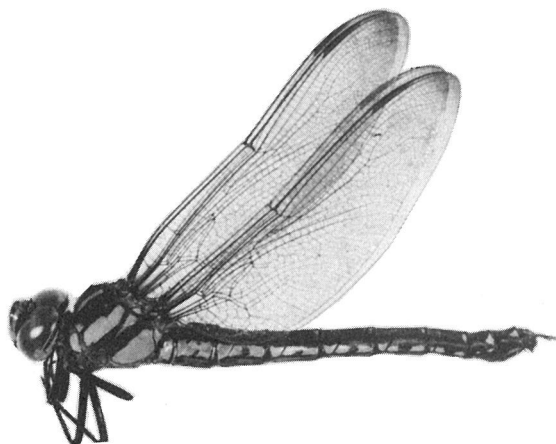


表 紙 の 昆 虫

ネアカヨシヤンマ *Aeschnophleia anisoptera* (SELYS) ♀

1990年9月2日 北本市石戸宿にて

採集／写真撮影 磯野治司

本誌前号で磯野治司氏が発表された北本市石戸宿での採集品の一つ。この珍種ヤンマが石戸宿に少なからず見られることを大いに喜びたい。

(ただし、簡単には採集できません、念のため。磯野氏の前号の報文にさりげなく書かれていた採集時刻を見ましたか・・・)

.....

## 南房総から(4 最終回)

小野寺 博昭

.....

「南房総から」の原稿を前回からフロッピー入稿にしました。碓井徹さんから懇切丁寧なワープロ異機種間の変換のしくみを説明したお手紙を戴き、且つ「…これからもこのフロッピーが勝浦と上尾を頻繁に往復することを願っております。」と書いて戴きました。私もフロッピーに自分の住所氏名を記入し、しかも房総半島での生活が長くなるかも知れないと考えて、「No.1」と書き込んだほどです。ところが10月2日付けの人事異動で本社に復帰することになり、房総半島での生活は僅か1年半で幕を閉じることになりました。従って「南房総から」は今回で最後となります。

<碓井 徹氏→→小野寺(1990.10.6)>

『拝復 お便りがすれ違ってしまったようですが、寄せ蛾記原稿として下記の1編を拝受いたしました。

・「清澄山における夏の採集・目撃記録(1990)」

東京でのお仕事に戻られるそうで……何と申し上げてよいのかわかりません！昆虫同好会誌としては異色の『南房総から』がせっかく連載ペースになったのに…という少なからず残念な編集担当者の気持ちと、小野寺さんの熱気が金曜セミナーに戻って来るといふ事務局担当者としての楽しみとが入り混じった複雑な心境です。今回いただきました原稿は『南房総から(最終回)』としましょうか？ともあれ、10月の金曜セミナーで久しぶりにお会いできますことを楽しみにしています。

敬具』

<小野寺→→碓井 徹氏(1990.10.11)>

『前略 先日はお便りありがとうございました。異動の辞令が下りてから慌ただしい毎日を送っています。仕事の面では、ホテル業は生まれて初めてでしたし、会員のお客様の方々と親しくなり、経験しなければ分からないことも体で知って(ホテ

ルの支配人というのはお客様のクレームにもメゲないタフな精神と休日が少なくてもへこたれず且つ長時間労働にも耐え得る体力も必要なのです)、これから、特に収支改善を含めて、運営全般の課題を一つずつ片付けていかなければならない時期に入ったところでした。社員教育についても(開業後1年間で社員達は期待に応えて急速な成長を示してくれ)お客様からはいろいろお褒めを頂戴しましたが、私自身は「まだまだこれからだ」との認識で、自分も含めて全員さらに磨きをかけて、先ず「東急ハーヴェストクラブ」では「勝浦がダントツだ!」という水準まで持って行き、次いで「会員制ホテルでは東急ハーヴェストクラブがダントツだ!」との評価を確立したいと思っていました。

結果としては、お客様がいつも快適に過ごすことが出来る環境を整え、どの部門の社員もお客様と明るく接することが出来る精神的基礎を築いたにとどまりました。言うなれば、外房線同様、単線の線路を敷設した程度で終わってしまいましたが、創業の苦労を共にした有能且つ感性の優れた副支配人が残っていますので、ゼフィルスを採卵し飼育して美しい成虫を羽化させるがごとく、きっと花を咲かせてくれるでしょう。私が復帰する先は古巣ですので、正に我が家に帰るようなもので、仕事の面では全く心配がありません。

問題は「個人の部」にあります。先ず、次回以降の転勤は単身赴任になることが明白ですので、運転免許を取得すべく6月後半から教習所に通い始めました。7～8月は、我が会員制リゾートホテルは「かきいれ時」ですから教習所は休み。9月1日から10月1日までの1ヶ月間は、勝浦ロータリークラブの招聘で1年間日本に滞在するニュージーランドからの交換留学生ジョナサン・キースト君が我が家にホームステイ。従って、お抱え運転手(妻)が使えず、又々休み。「ま、12月までに取ればイイか。」などと楽天的に考えていたものですから今回の辞令には大慌て。

毎日2時間ずつ車に乗り、日によっては未受講の学科を2時間取り、合計4時間を教習所で過ごす日もある有様。本社の部長の協力もあって、房総半島で少なくとも仮免までは行きそうですので、蝶採集に出掛ける時にも今までは常に助手席に乗せて戴いておりましたが、いずれは私も運転席に座ることになりそうです。もっとも採集・採卵によく同行させて戴く大釜さん、樋田さん、下田さん…いずれも特に運転の上手な人ばかりなので、とても運転させて貰えそうもなく、その暁にもやっぱり助手席が指定席になっているかも知れませんが……。

さて、閑話休題。私が、運転免許に関する限り、土壇場でバタバタする原因の一つになった、国土面積が日本と同じくらいで人口が300万人、南極まで飛行機で僅か2時間という国からやって来たジョナサン・キースト君についての形態的、生態的 観察結果について少し触れてみます。

- <年齢> 10月の金曜セミナーの日で18歳。
- <身長> 189cm
- <体重> 76Kg
- <靴のサイズ> 32cm !
- <布団> 勝浦ロータリークラブ所有の特製サイズ（幅は普通なので、エラく縦長に見える代物です）。
- <外観> とてもハンサムなので girl friend “S” から入れ代わり立ち代わり電話が掛かって来ます。（勿論、多国籍!）
- <一般的な食性> 納豆、海苔、醤油を使った煮物以外は巾広く食します。ギョーザなどは特に好み、大量に摂食します。

※我が家では彼を受け入れる前に、食費については当初「我が家の家族は4人。子供は2人共小学生だから大人に換算すると現行3人前。そこへ大人が1人増える計算だから33.3%増。外人は日本人より食べるだろうから補正して50%増程度。」と予測しておりました。ところが……。

<特殊な食性 >

- ①目玉焼き…「オカアサン、ボクノ国デハ目玉焼きハ4個ヨ。」→「さすが！」などとまだ余裕がありました。
- ②ネクター・ピーチ…先ず朝食の時に、プシッ!プシッ!プシッ!と3本立て続けに開けて飲んでしまいます。学校から帰るとプシッ!プシッ!プシッ!夕食時に又プシッ!プシッ!プシッ!ジョギングから戻ると又々プシッ!プシッ!プシッ!1日1ダースずつ確実に彼の胃袋に収まっていきます。人口3万人を切っている過疎地勝浦市ではネクターを何ダースも置いてあるようなお店はありません。そこでオカアサン（私の妻）は隣町御宿町も含めていくつものスーパーを駆け回る羽目に陥ります。
- ③雪見大福…9個入りを1回でペロリ。彼とは（主としてチャンネル権争いで）喧嘩友達になった我が家の小3の娘もさすがにビックリしたようです。
- ④レディボーデン…250円の145mlサイズでは耳搔き1杯程度といった風情で、475mlサイズなど軽く1回でクリア。彼の気に済むようにするためには1000mlサイズでないとダメ。それでさえ夕食後からテレビを見ながら平らげてしまいます。オカアサンが半月後に締めてみたところ、我が家の食費はなんと2.3倍に膨れ上がっていたそうです。オカアサンは悲鳴を上げ、オトウサン（つまり私）に食費の追加請求をしたのは言うまで

もありません。

このジョナサンの食欲を見ていると、リュウキュウムラサキやオオムラサキの6齢幼虫でさえも小食で可憐に思えて来ます。かのリンネは、なぜ現代人類を「ホモサピエンス」たった1種に分類したのか甚だ疑問です。

8月に東急ハーヴェストクラブを訪れた同じ会社の課長仲間が、オーストラリアに行ってきたとかで、お土産にオーストラリアの美麗種の蝶が沢山載った本をプレゼントしてくれました。ニュージーランドと言えばオーストラリアの隣国。ホームステイさせた家庭の者が彼等の本国を訪ねた場合には大歓迎してくれる、と聞いておりましたので、「蝶を目的にニュージーランドを訪問した暁には……。」と日々期待に胸を膨らませておりました。…ところが日本鱗翅学会9月例会の折り、今夏ニュージーランドに行ってきた倉地正さんという方から「ニュージーランドはオーストラリアと異なって蝶は僅か10数種しか生息していませんよ。」と聞くに及び、そう言えば彼がモンキアゲハ（房総半島では普通種）を見て、「アレハ鳥カト思ッタヨ。」と言っていたのを思い出し、ニュージーランドへの蝶採集旅行の夢はあえなく萎んでしまいました。

しかし、ホモサピエンス・ニュージーランド亜種のジョナサンは明るく陽気な愛すべき性格で、お陰で我が家は1ヶ月間とても賑やかでした。10月のホームステイ先のお医者さんは「まるで太陽が飛び込んで来たようだ。」とおっしゃっておりましたが、正にその通り。印象深い1ヶ月だったと思います。

ところで、今回の異動は「嬉しさ7割、心残り3割」といったところです。殆ど休日が取れなかった開業時の昨年と比較すれば（完全週休2日制の本社とは比較になりませんが）曲がりなりにも週1日の休みは確保出来るようになり、長野・山梨・福島・方面への遠征を諦めようと覚悟を決め、清澄山へ通うことに専念しさえすれば、自ずから「クロコノマチョウの動静」及び「ルームスジジミの生態」等にテーマが絞られ、それはそれなりにコツコツ楽しみそうだと自分を納得させつつあるところでした。

例の「蝶日記（本年版）」ワープロ原稿（9月26日分）にも、次のように打ち込みました。

「…やや心残りなのは以下の点をやってみたかったが、果たせなかったことだ。

- (1) 幸運なことに今夏はクロコノマチョウの夏型成虫1♂を採集（8月27日）し、それを端緒にして終齢幼虫（9月3日に3頭、9月10日に2頭）及び蛹（9月10日に2頭）を発見出来たことから、この秋の間に秋型の生息ポイントを突き止めて、来春は秋型の越冬成虫を何とかして見付け出し、房総半島におけるクロコノマチョウの土着の可能性を確認してみたいと考え

ていたこと。

- (2) この夏はルーミスジミをいろいろな場面で見ることが出来、単なる採集の対象物としてではなく、種としてのルーミスジミに対する興味と関心が膨らみ始めたところだった。従って、出来れば今秋から、遅くとも来春は早目から清澄山に通い始めれば、なかなか一筋縄ではいかない蝶であるにしても、地の利を生かして、ルーミスジミの生態について少しずつヴェールを剥がしていき得るのではないかと思っていたこと。
- (3) 松井安俊氏より房総半島のクロヒカゲの生息確認というヒントを得たことから、他の普通種についても房総半島南部における記録を洗い出し、整理してみたかったこと。
- (4) 房総亜種になっているヤマキマダラヒカゲのみならず、サトキマダラヒカゲや他の普通種についても房総半島南部以外に産するものと本当に差異がないのかどうか、採卵や飼育も含めて、徐々に確認する作業をやってみたかったこと。」

又、10月1日に大島良美さんから、ルーミスジミの生態について、大変有益なアドバイスを戴いたのですが、清澄山まで僅か30分という「地の利」は失われ、その点の究明は難しくなりました。

しかしながら、「蝶日記」の同じ日の後段に次のように記しました。

「…桶川に戻れそうだということを先ずは大釜氏と小堀氏に電話。大釜氏は又食草を運んでくれると言い手放しで喜んでくれたし、小堀氏も毎朝の通勤電車での1時間の蝶談義が予想外に早く復活することを心から喜んでくれた。」と。房総半島の孤独な蝶屋から、埼玉昆虫談話会やタカオ・ゼミに復活し、顔と顔を突き合わせて話が出来た蝶仲間の中の蝶屋に戻る喜びの方が私自身にはやはり大きいのです。

帰任が少し遅れ、金曜セミナーでの再会は11月からになりそうですが、今からその日の到来を指折り数えて楽しみにしております。

草々』

…というワケで、「南房総から（最終回）」を終わらせることにします。

埼玉昆虫談話会の皆さん、「恵まれない日々を送った孤独な蝶屋」を、以前同様、また宜しく願います。

以上

(おのでら ひろあき 〒299-52 千葉県勝浦市串浜 1231-1)  
現住所 (おのでら ひろあき ☎363 桶川市泉 2-19-50~4-119)

.....

# スマトラ島の蝶の記録

市川 和夫・川名 美佐男

.....

報告者のうちの川名は、1990年の夏に「陸生貝類」調査のためインドネシアのスマトラ島を訪れたが、その際に22種の蝶を採集し市川に提供した。市川は、それらを展翅して種名の判定に努めたが、シジミチョウ科の1種を除き鑑定することが出来たので記録する。

採集データは次のとおりである。

(North Sumatra)

Tiga Runggu (チーク林) : 1990年7月28日 (川名美佐男 採集)

(West Sumatra)

Teluk Bayur, Padang : 1990年8月1日 (同上)

Lolong Padang : 1990年8月2日 (同上)

Lembah Anai (Water fall), Pariaman Pref. : 1990年8月3日 (同上)

Lurah Berangin (E. Q.), Pasaman Pref. : 1990年8月4日 (同上)

## 採集記録

*Graphium sarpedon* LINNAEUS サルペドンタイマイ (アオスジアゲハ) E. Q., 1♂.

*Papilio palinurus* FABRICIUS パリヌルスアゲハ E. Q., 1♂.

*Catopsilia pyranthe* LINNAEUS ピランテウスキシロチョウ Tiga Runggu, 1♀.

*Appias luncida hippona* FRUHSTORFER リンキダトガリシロチョウ Water fall, 2♂♂.

*A. olferna olferna* SUINHOE オルフェルナトガリシロチョウ

Tiga Runggu, 1♀ 1♂ ; Water fall, 1♀.

*Leptosia nina malayana* FRUHSTOEFER クロテンシロチョウ Water fall, 1♀.

*Terinos terpander teosde* NICEVILLE テルパンダービロウドタテハ E. Q., 1♂.

*Cethosia hypsea aeole* MOORE ヒプセアハレギチョウ E. Q., 1♂.

*C. methypsea carolinae* FORBES メテイプセアハレギチョウ E. Q., 1♂.

*Hypolimnas anomala* WALLACE アノマラムラサキ Tiga Runggu, 1♂.

*H. bolina jacintha* DRURY ボリナムラサキ Tiga Runggu, 1♀.



- Junonia iphita tosca* FRUHSTORFER イピタタテハモドキ E. Q., 4♂♂.  
*J. atlites atlites* LINNAEUS アトリテスタテハモドキ Teluk Bayur, 1♂.  
*J. almana almana* LINNAEUS タテハモドキ Teluk Bayur, 1♂.  
*Kallima limborgi tribonia* FRUHSTORFER リンボルギイコノハチヨウ Water fall, 1♀.  
*Euthalia dunya* DOUBLEDAY ホシオビイナズマ Water fall, 1♂.  
*Elymnias hypermnestra decolorata* FRUHSTORFER ルリモンジャノメ Water fall, 1♂.  
*E. nesaea laisidis* de NICEVILLE ネサエアルリモンジャノメ  
 Teluk BAYUR, 1♀ ; lolong, 1♀.  
*E. ceryxoides* de NICEVILLE ケリクソイデスルリモンジャノメ Tiga Runggu, 1♂.  
*Zeuxidia doubledayi doubledayi* WESTWOOD ドウブルダイイトガリバワモン  
 Tiga Runggu, 1♂.  
*Mycalasis marginata mtginata* MOORE マルギナタコジャノメ Tiga Runggu, 2♂♂.

## (参考文献)

- 塚田悦造・西山保典, 1980. 東南アジア島嶼の蝶 Vol. 1. 東京, プラパック.  
 森本和彦・矢田 脩, 1981. 同上 Vol. 2.  
 青木俊明・山口就平・植村好延, 1982. 同上 Vol. 3.  
 塚田悦造, 1985. 同上 Vol. 4.

(いちかわ かずお ☎336 浦和市南本町2-7-11)  
 (かわな みさお ☎330 大宮市中川617-18)

所沢市三ヶ島のホソオチョウ健在

神久保 美津夫

1990年9月9日(日)、所沢市三ヶ島でホソオチョウの幼虫を多数確認した。同地の本種は放蝶されたものとされているが、天敵も少ないらしく生命力が強いこともあって、この秋には相当数の幼虫が発生しているようだ。同日の夕方、この地を訪れ幼虫を確認したところ、初令54exs.、2~3令25exs.、終令2exs.、卵10exs.。その他にも畑のサクの中までウマノスズクサが入り込み、幼虫もついていたが、畑にはいれず数えられなかった。なお、ジャコウアゲハの幼虫も数頭確認することができた。

(じんくぼ みつお ☎358 入間市下藤沢 158)

.....

## 東京都文京区のカメムシ

—1970年代の採集記録から—

芻倉 正人

.....

筆者は中学生時代、東大の本郷キャンパスの近くに住み、この中の猫の額ほどの草っ原で本格的に昆虫採集を始めた。当時の採集品の中にはヨコツナツチカメムシやノコギリカメムシといった、首都圏では珍しい種も含まれている。現在すでに絶滅したか、今後いなくなる種も少なからずいると思われ、都市昆虫の分布資料として、現在手元にある標本のデータを記録しておきたい。

- Adrisa magna* UHLER ヨコツナツチカメムシ 1ex. 文京区 東京大学 3. VI, 1979
- Poecilocoris lewisi* DISTANT アカスジキンカメムシ 1ex. 文京区 東京大学 24. V, 1978.
- Eurydema rugosum* MOTSCHULSKY ナガメ  
3exs. 文京区 東京大学 31. VIII, 1979 グンバイナズナの類いにて
- Plautia crossata* DALLAS チャバネアオカメムシ  
1ex. 文京区 向丘(灯火) 9. VI, 1979 東大付近の水銀灯
- Piezodorus hybneri* GMELIN イチモンジカメムシ 1ex. 文京区 向丘(灯火) 2. VII, 1979
- Acanthosoma denticauda* JAKOVLEV セアカツノカメムシ  
1ex. 文京区 大塚(灯火) 16. IX, 1977 護国寺の近くの塾に飛来
- Sastragara esakii* HASEGAWA エサキモンキツノカメムシ  
1ex. 文京区 東京大学 20. IX, 1977
- Dichobothrium nubilum* DALLAS アオモンカメムシ 1ex. 文京区 大塚(灯火) 20. IX, 1977
- Megymenum gracilicorne* DALLAS ノコギリカメムシ  
1ex. 文京区 東京大学 1. X, 1979 カラスウリにて
- Plinachthus bocoloripes* SCOTT キバラヘリカメムシ 1ex. 文京区 東京大学 10. X, 1979
- Cletus trigonus* THUNBERG ホソハリカメムシ 1ex. 文京区 東京大学 12. V, 1979
- Acanthrotis soedidus* THUNBERG ホオズキヘリカメムシ 1ex. 文京区 東京大学 31. VIII, 1979
- Leptocorixa corbeti* CHINA クモヘリカメムシ 2exs. 文京区 東京大学 29. VIII, 1979
- Riptortus clavatus* THUNBERG ホソハリカメムシ 2exs. 文京区 東京大学 28. VIII, 1979
- Metochus abbreviatus* SCOTT オオモンシロナガカメムシ  
1ex. 文京区 向丘(灯火) 31. VII, 1979

*Physopelta cincticollis* STÅL ヒメホシカメムシ

1ex. 文京区 東京大学 29. VII, 1979 アカメガシワ樹にて

*Physopelta gutta* BURMEISTER オオホシカメムシ

1ex. 文京区 東京大学 10. X, 1979 前種と混棲していたが、数は少なかった。

以上17種のみであり、意識的に1種でも多く採集しようとしたわけではないので、不完全ではあるが、身近な地域に目を向ける一助となれば幸いである。次に若干の種について、文献記録を挙げておく。

#### ヨコヅナツチカメムシ

黒佐<sup>1)</sup>が港区自然教育園から、安永<sup>2)</sup>が世田谷区経堂から記録している。埼玉では野沢<sup>3)</sup>が川本村(現川本町)瀬山から記録しているのみで、少ないものようである。

#### ノコギリカメムシ

埼玉では野沢<sup>3)</sup>が児玉町、川本村、天覧山から記録しており、寄居町、皆野町、東松山市、からも記録があると述べている。東京に隣接する地域からの記録はないようである。

#### 参考文献

- 1) 黒佐和義 (1981) 自然教育園で得られた土壌昆虫について (II). 自然教育園報告, No. 12 : 77-87.
- 2) 安永一正 (1987) 東京都世田谷区でヨコヅナツチカメムシを採集. 月刊むし, No. 192 : 42.
- 3) 野沢雅美 (1978) 埼玉の半翅類. 埼玉県動物誌 : 355-382.

(ひなくら まさと 〒336 浦和市大間木1388-3 東浦和シティハイツ201)

#### //// //// //// //// //// //// 夏季宿泊談話会の報告 //// //// //// //// ////

1990年の夏季宿泊談話会は、33名が参加して8月4~5日、群馬県榛名湖畔の国民宿舎『榛名吾妻荘』を根拠地としておこなわれました。

昨年の三峰山での夏季宿泊談話会と同様、台風の到来が心配されましたが、台風は遥かかなた太平洋沖を東進したため影響はほとんどなく、水不足に悩む多くの人達をがっかりさせました。我々としては予想外の晴天で、心の中で「ニンマリ・・・」しながら各自、数々の収穫を得て、夜は懇談を楽しみました。特に樋口信也君(9才)が4日の夜に捕まえた大型のカエルは、後日NHKテレビに出演し、この採集会をさらに意義深いものとしてくれました。

夜の懇談会で特に注目されたことは、年配の方々から「以前の榛名に比較してゼフィルス<sup>1)</sup>の個体数が激減している」との指摘があったことです。また、原因について種々の要因がだされましたが、決め手が出ないままお開きとなりました。そして、翌日の5日、ビジターセンターの受付のおばさんは、こちらから何も言わないにもかかわらず、「昔はミドリシジミがいっぱいたのにね・・・」とつぶやくように、しかし大きな声で我々に聞こえるように話していたことが印象に残りました。(江村薫 記)

.....

## 北本市でウスイロコノマチョウを採集

小堀 文彦

.....

1990年は、近年にないような迷蝶の当たり年で、小耳にはさんただけでも、南西諸島で迷マダラや、シジミの類が豊産であった。本州でもカバマダラが発生したり、クロコノマチョウが、分布をかなり大きなスパンで伸ばしていたりと、賑やかな年だったようだ。ウスイロコノマチョウもあちらこちらで採れているようである（東北で春に採れたという噂も飛び込んで来た。）

さて、筆者も採集歴10年目にして初めて迷蝶を採集することができたので、そのときの状況も交えて報告する。

採集個体： ウスイロコノマチョウ 夏型 1♀

(ハネに損傷なく、鱗粉が少し飛んでいるかな、という程度の鮮度)

採集場所： 埼玉県北本市中央（JR北本駅構内）

採集日： 1990年9月20日 8:45pm

採集者： 小堀文彦

9月20日は、台風20号が通過した翌日ということもあり、穏やかな快晴の一日だったと記憶している。いつものように仕事を終えて北本駅に着き、改札を出て、西口の階段を下りようとしたときに、踊り場の上の壁に蝶を見つけた。ジャノメ類ということはすぐに分かったが、近付ついてみてビックリ！ 転げるようにして階段を駆けおり、自転車置き場までダッシュ。そのあと膝ががくがくするほど自転車をこいで、7分かかる道のりを4分で走り家に着いたときにはもう息もきれんばかり。入浴中の家族が何事かと飛び出してくるような大声を上げながら、ネットと三角缶、そして手近にあったバカチョンカメラを携えて愛車ランクルへ！ ホイールスピンの音も華々しく夜の北本駅へとまっしぐら・・・「きっと事故が起きるのはこういう時なんだろうか・・・」などと物騒な事を頭の隅で考えていたりもした。

さて、駅に着き階段を一足飛びにあがっていくと、いたいた・・・さっきと同じ場所に同じ恰好のまま止まっていた。改札口から吐き出されてくる人波の中を、ネットとカメラを持った変なおじさんは、恥ずかしさを堪えて、3枚の写真を撮り、そしてチョウも採ったのであった。

安全運転で自宅まで帰ると、普段から筆者に大漁節を聴かせてくれるO氏に電話。もつれた口調で事の一部始終を話しおえ、コノマ類の見分け方を聞いた。恥ずかしいことに、このときまで筆者はクロコノマとウスイロコノマとの違いをまじめに考えたことが無かったのだった。

翌21日より、職場にて採卵開始。リンゴの薄切りに砂糖水をかけて、ススキをフィルムケースに差したものと一緒にプラスチックの漬け物容器に入れる。勝手に吸汁してくれるので、とても楽だなと思っ

ていると、夕方になってから数卵を卵塊で産卵。照明を消して帰宅後にも産卵したようで、翌日見ると、50卵程3卵塊にして産んでいた。

23、24日は社員旅行で事務所を留守にしていたのだが、その間に20卵程産んだ。合計約70卵産んだわけだが、21日産付分がだんだんとへこんできたので産卵を諦めて、標本用にご臨終願った。

結局卵はすべて萎んでしまったが、採集した蝶一頭で「迷蝶採集」「迷蝶記録」「ウスイロコノマ採卵法」「少し傷んでしまったが標本」が手元に残った。心に残る1頭となった。

最後に電話による同定を快く引き受けて下さった小野寺博昭氏と、発表を力強く勧めて下さった碓井徹氏に感謝して結びとしたい。

(こぼり ふみひこ ☎364 北本市石戸 5-263-1 センチュリー北本高尾 103号)

与野市でウスイロコノマチョウを採集

荻島和美

与野市円阿弥でウスイロコノマチョウを偶然採集しているので報告する。

採集個体：ウスイロコノマチョウ 1♂ (写真の個体)

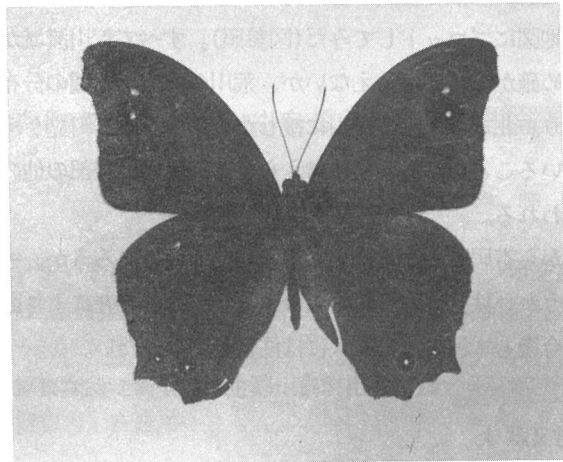
採集場所：埼玉県与野市円阿弥 (淑徳与野高校校舎内)

採集日：1990年10月9日

採集者：荻島和美

夕方5時半頃だったと思うが、学校の玄関のホールにヒカゲチョウらしきものが1頭飛び込んで来て、低く飛翔していた。ヒカゲチョウにしては少し黒っぽく飛び方も違うと思ったが、目で追うだけで確認はしなかった。

が、校庭のほうへ出て行こうとしたチョウがたまたま職員室に入ってしまったので確認してみたら、ウスイロコノマチョウであることがわかり、あわてて採集した次第である。なお、この日の2日前に台風が通過している。



(おぎしま かずみ ☎365 鴻巣市鴻巣 1183-14)

.....

## 埼玉県におけるシブイロカヤキリモドキの記録

内田正吉

.....

シブイロカヤキリモドキ *Xestophrys horvathi* BOLIVAR は、日浦(1977)によると千葉県・神奈川県以西の太平洋岸からニューギニアまで分布する種である。本県における本種のこれまでの記録は、山崎(1978)による川口市十二月田、浦和市下大久保の埼玉大学構内の報告があり、それによると同地が分布の北限かつ東限地であり、「今後の分布の様子は注目されよう」とある。また、園部(1988)は、1980年に北葛飾郡栗橋町で確認している。

筆者は、1990年4月に大里郡寄居市小前田において本種を確認・採集することができ、以後6月までに県内数ヶ所で生息地を確認している。以下に採集および明らかな目撃記録を記す。

(採集および目撃記録はすべて筆者自身による。)

- 【北本市】 下沼(麦畑やヨシ群落)；1♂(他に鳴き声多数確認)，8.V.1990。  
高尾(麦畑)；1♂(他に鳴き声多数確認)，8.V.1990。
- 【花園町】 小前田(道路端の草むら)；発音中の1♂を目撃，8.V.1990。
- 【寄居市】 中小前田(林縁の環境のチャの樹上)；1♂，26.IV.1990。  
立ヶ瀬(荒川河原のヨシ群落)；2♂(他に鳴き声多数確認)，9.V.1990。  
同 上 1♂(他に鳴き声多数確認)，11.VI.1990。

これらを地図にプロットしてみた(図参照)。すべて荒川流域からの記録であることがわかる。データが少ないため確かなことは言えないが、荒川の河原が本種の分布拡大に大きな役割をはたしているのは確実であろう。北本市下沼の荒川に接した麦畑や、寄居町立ヶ瀬の荒川河原において多数個体の鳴き声を確認していることから容易に考えられる。県内平野部の他の河川も、同様に本種の分布拡大を促していると思われる。

いつごろから寄居町あたりにまで侵入してきたのだろうか。また、寄居より上流の荒川にも分布しているのだろうか。秩父地方への侵入は、玉淀ダム存在により困難なものと思われるが、はたしてどうだろうか。今後も本種の分布拡大には注目していきたい。

### 〔参考文献〕

- 日浦 勇(1977) 直翅目(跳躍目). 原色日本昆虫図鑑, 下:55-81.  
山崎 柄根(1978) 埼玉の直翅類. 埼玉県動物誌, 383-401. 埼玉県教育委員会.



図 シブイロカヤキリモドキの生息確認地

環境庁(1979) 日本の重要な昆虫類, 南関東版.

園部 力雄(1988) 栃木県のキリギリス類に関する記録. インセクト 39(2):48-58.

(うちだ まさよし ㊞369-12 大里郡寄居町桜沢 1505)

比企郡川島町でオオキトンボを採集

齊藤 洋一

筆者は、比企郡川島町にあるホンダエアポート(飛行場)近くの沼の近辺でオオキトンボを採集したので報告する。当日は晴天無風で、採集したのは12時50分頃。採集した個体以外には本種を目撃することはできなかった。

採集個体：オオキトンボ 1♀	採集場所：埼玉県比企郡川島町出丸下郷
採集日：1990年11月3日	採集者：齊藤洋一

(さいとう よういち 〒132 江戸川区平井 5-26-12)

浦和市におけるテングチョウの採集記録

山崎 浩

筆者は、浦和市においてテングチョウを採集しているので報告する。

採集個体：テングチョウ *Libythea celtis celtoides* FRUITSORFER 1♂

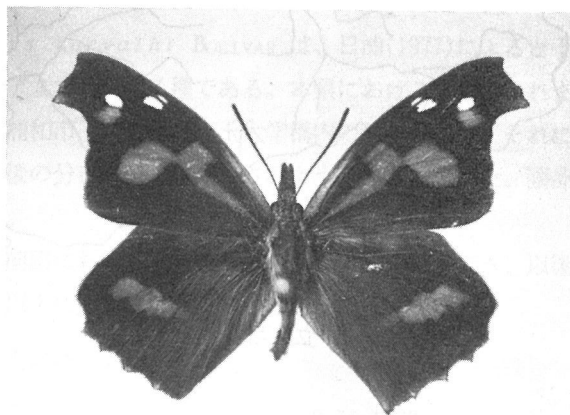
採集場所：埼玉県浦和市秋ヶ瀬  
公園ピクニックの森

採集日：1990年6月17日

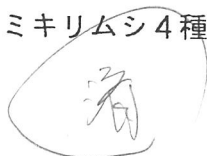
採集者：山崎 浩

尚、採集個体(写真の個体)は、  
シラサギ記念自然史博物館にて  
保管されている。

(やまさき ひろし ☎338 浦和市  
大久保領家339-2-102)



埼玉県未記録のカミキリムシ4種



小田 博

『日本産カミキリ大図鑑』の都道府県別分布図において、埼玉県が疑問種または空白となっている次の4種を採集・保管しているので報告しておく。

1. ヒメナガサビカミキリ *Pterolophia (Pterolophia) leiopodina* (BATES, 1873)  
埼玉県秩父郡横瀬町二子山, 1♀, 13. VI. 1982.
2. ワモンサビカミキリ *Pterolophia (Hylobrotus) annulata* (CHEVROLAT, 1845)  
埼玉県富士見市上沢3丁目, 1♀, 7. IX. 1980 [街灯].
3. フタモンアラゲカミキリ *Rhopaloscelis maculatus* BATES, 1877  
埼玉県秩父郡大滝村秩父湖, 1♂, 14. VII. 1983.
4. ゴイシモモブトカミキリ *Callapoecus guttatus* BATES, 1884  
埼玉県秩父郡大滝村小赤沢, 1♂, 30. VII. 1984 [灯火].

参考文献：日本鞘翅目学会編(1984), 『日本産カミキリ大図鑑』, 講談社.

(おだ ひろし ☎354 富士見市上沢 3-6-15)



.....

## 浦和市秋ヶ瀬周辺に於ける

### ミドリシジミの発生状況

下田正廣

.....

1989年に14回、1990年に6回と計20回当地に調査観察を得る機会にめぐまれたのでその結果をご報告申し上げたい。尚、♀のはん紋の比率を他の生息地と比較検討するのもおもしろい。又、同一地でも年によって異なるものと思われるので課題も多い。積極的に活動される方の今後のデータとして参考としてほしい。

1989年の発生はミドリシジミの♂の記録から見て6月10日前後と思われる。6月12日の時点では♀の目撃は得られなかった。♀の初見は6月14日の2♀であった。最盛期は目撃数から見て6月17日～25日頃と思われる。♂は6月15日～22日頃、♀は6月17日～7月5日と♀の方が長期にわたって新鮮な個体が見られ、この頃の♂は破損や汚損個体も多いが中には新鮮な個体もかなりあった。

この生息地は全国でもまれな個体数の多いことで有名で、棲息環境が保全されていることを示している。しかしながら秋ヶ瀬公園も以前は今の3倍ほどの広いハンノキ林と湿地で覆われていたが運動公園化が進み開発の波が例外なく押寄せている。現在のハンノキ林は秋ヶ瀬公園の北側の羽根倉橋寄りに残されたピクニックの森周辺である。保存状況はきわめて良好と思われるが外来種のニセアカシアをはじめクルミ、ヤナギなど数種が進入し植物相の転換がみられるのは気になるところである。これらも少なからずミドリシジミの個体数の増減には影響しそうである。又、コナラ、クヌギ林も多かった以前に比べて極端に少なくなり、ゴマダラチョウ、オオムラサキ、テングチョウの食草であるエノキも減少し従ってそれらの蝶も減少の一途をたどっている。オオムラサキは今では殆ど見ることができない。これにともなって公園一面に広大な草地部分が整備されたために平地の都市部ではめずらしいオオウラギンシジモウモンは姿を消して見ることができないのは残念である。わずかにミドリヒョウモンが見られるにすぎない。ツマグロキチョウ、カラスアゲハ、ヒメアカタテハ、アサマイチモンジ、ウラギンシジミ、トラフシジミ、ウラナミシジミ、ミヤマセセリ、コチャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリなどの記録があり、これらの蝶の再確認や目撃記録などの分布調査が望まれる。

現在、平地に於いて普通種といわれるものも開発のあおりの影響で減少傾向はまぬがれないが当地で比較的健在な種としてはミドリシジミをはじめ、ミズイロオナガシジミ、ゴイシジミ、ギンイチモンジセセリ、キマダラセセリ、ウラギンシジミ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、コムラサキ、ゴマダラチョウ、ルリタテハ、アカタテハ、イチモンジチョウ、キタテハ、テングチョウ、モンキチョウ、

観 察 地 点	観 察 日	♂	♀	合 計	♀ の 班 紋			
					A	B	AB	O
浦和市秋ヶ瀬公園 A地点	1989. 6. 12	17	0	17	-	-	-	-
A地点	6. 14	5	2	7	1			1
浦和市羽根倉橋北側 B地点	6. 16	6	6	12	2	1	1	2
B地点	6. 17	6	9	15	3	2	1	2
A地点	6. 17	18	15	33	2	6	2	5
A地点	6. 18	5	6	11		1	2	3
A地点	6. 21	3	5	8	2	1		2
B地点	6. 22	6	3	9		1		2
A地点	6. 22	12	4	16		2		2
A地点	6. 27	3	4	7		2	1	1
A地点	6. 29	3	5	8		3		2
A地点	7. 01	2	6	8		1		5
B地点	7. 01	8	18	26		2		16
B地点	7. 04	8	15	23	1	3		11
B地点	1990. 6. 18	8	16	24		5	3	8
A地点	6. 18	4	11	15		2	2	7
B地点	6. 22	45	41	86	7	12	4	18
B地点	6. 24	8	13	21	2	6		5
A地点	6. 24	15	20	35	2	7	2	9
B地点	7. 02	4	22	26	2	10	3	7
	合 計	186	221	407	24	67	21	109
	割 合 %	45. 7	54. 3	100				
			100		10. 86	30. 32	9. 50	49. 32

観 察 の 状 況	備 考
発生初期で♀は目撃できず ♂は新鮮	ほぼ平年並の発生である ミズイロオナガが多い
♀が出始める	個体数が少なくハンノキを高竿でたたいての観察 他の蝶も少なめ。
B型が下草の葉上に羽を開いて鮮やかだ	秋ヶ瀬公園と比べて人も少なく自然状態が保たれて いる。ブッシュが多い。
♂♀とも個体数が多かった	蒸し暑さが増して来た
ここで少ないA型とAB型が得られた	同上
色彩が玉虫色の1♂を得た	曇り時々小雨で肌寒く個体数は少ない
♀個体が増して来た	温度も徐々に上がり状況は良いが個体数は少ない
♂個体に汚損が出始めた、他に目撃10	ポイントが変わりミドリシジミの移動が見られた
古びた個体が混じる	同上
新鮮な個体と汚損が混じる	観察中に雨が強く降り、湿地帯の水位は上昇
日ごろの飛ぶ速さの2~3倍で見失う	蒸し暑く、風が少し強く吹き個体が風に流されて 効率が悪い
最盛期を過ぎ個体数は減少し始めた	ポイント付近をたたいたが極端に少なくなった
A地点と異なり♀の個体数が多い	♀の最盛期に当たり、O型が大半をしめる
約半数は破損個体、♀はO型が目立つ	ミズイロオナガの生き残りが見られる。 モンシロが個体数を増している
今年は6月初旬から見られたもよう	昨年と比べて気温が高く暑い日が続き ミドリシジミの発生率が高い
♀個体の方が多い	既に最盛期に入っている。ゴマダラチョウを目撃
暑いときは殆どの個体が下草に降りてい る。1/3の個体が少し痛んでいた	ハンノキの小枝には一頭も見られず、気温37.5度 木陰で休んでいたら下草に無数に静止していた
ヤブガラシの花に求蜜する個体が多い	31度と蒸し暑く、下草に集まる個体が多い
暑いので少し薄暗い場所に多い	ミドリシジミを見る会に参加。参加者約100名
♂♀共に新鮮な個体が多く見られた	♂の個体数は極端に少なくなる ギンイチモンジセセリの新鮮個体が見られる

キチョウ、ツマキチョウ、アオスジアゲハ、カラスアゲハ、等であるが他の普通種といわれるものは個体数も多いが年々棲息環境が悪化しているのでこれらの蝶が見られるのはあと何年という種も少なくないような気がする。

1990年は昨年と異なり6月中旬の発生期にはすでに30度を越す真夏日が連日のように続き、人間にとっては過ごしにくい日々も蝶にとっては好条件が満たされたもようである。当地のハンノキ林は例年だと湿地帯のために道筋まで水位が上がり水浸しとなるが、いくつかの池の底が地割れの状態ですべて水不足の光景が判る。しかしながらミドリシジミにとっては蛹が下草の枯れ葉で羽化するには好状態で蛹が水没し死ぬ確率が低かったために今年は数年来の大発生に至ったと推測される。又、ミドリシジミの天敵であるクモ、ダニの発生率が低かったこと、日照で高温が続き鳥類が活発に行動しなかったことも予想される。今年のみドリシジミの大発生は他の様々な好条件が重なって生まれたきわめて稀なケースである。

ミドリシジミ ♀ 221個体の割合は A型 24頭 (10.86%)、B型 67頭 (30.32%)、AB型 21頭 (9.50%)、O型 109頭 (49.32%) という結果となった。浦和市秋ヶ瀬周辺では♀のうちO型が半数を占めB型が3割、A型、AB型が1割前後で他の生息地などとの比較も興味があるところである。

(しもだ まさひろ ㊞330 大宮市東大成町 2-690-1 OSKビル)

## 東京都心部におけるキイロゲンセイの採集記録

籾倉 正人

古い記録になるが、筆者は、東京都文京区内でキイロゲンセイ *Zonitis japonica* PIC を採集しているので、報告しておく。本種は板橋区<sup>1)</sup>や太田区<sup>2)</sup>からは記録されておらず、また、神奈川県<sup>3)</sup>からは小田原と箒沢(西丹沢)、埼玉<sup>4)</sup>からは三峰山、正丸峠及び上中尾(大滝村)で記録されているものの、平野部の記録は見当たらない。なお、採集個体は筆者がかつて文京区在住中に、東大付近の灯火で得たものである。

1 ex. 東京都文京区向丘 6. VIII, 1979 籾倉正人 採集・保管

### 参考文献

- 1) 東京都板橋区 (1986) 板橋区の昆虫類 鞘翅目.  
板橋区昆虫類等実態調査 : 53-122
- 2) 東京都太田区 (1984) 太田区の昆虫. 太田区自然環境保全基礎調査報告書
- 3) 平野幸彦 (1981) 神奈川県の甲虫. 神奈川県昆虫調査報告書 : 233-372
- 4) 斎藤良夫 (1978) 埼玉県の甲虫. 埼玉県動物誌 : 213-257

(ひなくら まさと 〒336 浦和市大間木1388-3 東浦和シティハイツ201)

ミヤマクワガタの矮小個体の記録

利根川 雅実

1990年8月17日(金)、萩原昇氏とキベリクワガタを採集に群馬県へ行った。その途中午前10時頃、宝川温泉から林道を歩いていたとき、柳の枝にクワガタがついているのを見つけた。採ってみるとコクワガタより小さいミヤマクワガタ♂であった。最小記録ではないであろうが珍しいと思うので記録する。体長は3.8cm(写真参照)であった。なお写真を撮影してくださった碓井徹氏に感謝いたします。



(とねがわ まさみ ☎336 浦和市三室 1218-3-807)

エレベーターに乗ったアオスジアゲハ

利根川 雅実

1990年8月23日(金)午後7時に、妻の幸代がエレベーターの中でアオスジアゲハを採集したので報告する。自宅は高層住宅で8階にあり、1階に降りるため2基あるエレベーターの右に乗ったところ、床に黒いものが止っていたそうである。よく見ると蝶だったので、採って自宅に引き返したとのことである。蚊は1階から人についてエレベーターに乗り込み、8階にも姿をみせるが、蝶がどうしてエレベーターに乗ったか不思議である。

(とねがわ まさみ ☎336 浦和市三室 1218-3-807)

高層住宅で夜間採集した蝶

利根川 雅実

筆者は、1988年に浦和市三室にある自宅の高層住宅で1年間夜間採集をおこなったが、その時に、数種類のチョウも採集できたので報告する。なお、気温は自宅(8階)の玄関の外に置いた温度計で測定した。

モンシロチョウ	1♀	8. VI. 1988	3階	22:15	23℃
サトキマダラヒカゲ	1♂	13. VI. 1988	5階	22:20	22℃
ヒカゲチョウ	1♀	13. IX. 1988	3階	20:20	気温不明
ヒメジャノメ	1♂	22. IX. 1988	4階	23:10	21℃
ヤマトシジミ	1♂	26. IX. 1988	5階	23:00	19℃
イチモンジセセリ	1♂	7. X. 1988	7階	23:00	19℃
ヤマトシジミ	1♂	17. X. 1988	1階	23:00	12℃

なお、同定をしてくださった巢瀬司氏に感謝致します。

(とねがわ まさみ ☎336 浦和市三室 1218-3-807)

(紹介)

『テグレット技術開発』からパーソナルコンピューター寄贈される

市川 和夫

パソコン用ソフト「知子の情報」など、及びパソコン通信「テグネット」で有名な(有)テグレット技術開発(東京都板橋区中台2-37-4, 代表取締役 野手 晴生氏, ☎ 03-3932-9869)は、1990年度の収益の一部を社会に還元することとし、パソコンとソフトとを筑波大学付属豊学校と、環境保全にかかわっている埼玉昆虫談話会へ贈るという決定をしました。

当会を推薦して下さった方は所沢市在住の大森 孟 氏(八国山の自然に親しみつつ守る会 代表)です。そこで紹介者としては、代表の牧林功氏と相談のうえ、ありがたくお受けすることとし、県内の昆虫に関する情報処理などに活用させてもらうことにしました。1990年9月23日に、(有)テグレット技術開発から当会へ次の品が寄贈されましたので、お知らせします。

- (1) NEC PC-9801N 1台
- (2) 「知子の情報」ver. 3 「直子の代筆」ver. 3 「章子の書斎」

(この3種は、寄贈者が発売しているソフトであります)

以上の品は、しばらくは南浦和駅に近い紹介者の家に置き、利根川雅実、大森孟の両氏の指導を受けながら周辺機器の整備を行い、将来は会員が有効利用出来るように配慮致します。

なお、ノート型パソコンですので、いつでも貸し出し可能です。

寄贈者に感謝申し上げるとともに推薦者にもお礼申し上げ、会員各位に披露いたします。

(いちかわ かずお ☎336 浦和市南本町2-7-11)

.....

## 所沢市三ヶ島の5・6月の蝶

下田正廣

.....

私は所沢市三ヶ島狭山丘陵に於いて1990年の5月から6月にかけて積極的に11回にわたり調査、観察を行った。その結果を下記の表にまとめてみたので報告する。尚、数字の入らなかった種は当然ながら生息していると思われるものをリストアップして見た。なお、[多][並][少][稀]といった個体数の表現は、この年における各種の蝶類の相対的な個体数として理解していただきたい。

種名 日付→	5月				6月								合計	個体数
	12	20	28	30	01	03	04	06	11	18	22			
アゲハ		2		1							5	2	10	並
モンキアゲハ		1						1					2	稀
カラスアゲハ														少
ミヤマカラスアゲハ														稀
キアゲハ									1	25	30		56	多
アオスジアゲハ			2		1	3	1		1				8	少
クロアゲハ		1	1			1	1	1	1				6	少
ジャコウアゲハ	1	3	5	8	14	12	10	14	27	16	6		116	多
ホソオチョウ				2	1	3	3	4		2			15	並
ツマキチョウ	1												1	並
モンシロチョウ			2	2	3		4	4	15	7	5		42	並
スジグロシロチョウ			2		4	2	2	3	7	13	15		48	並
キチョウ				1		1			3	10	1		16	並
ツマグロキチョウ									1				1	稀
モンキチョウ						1				16	5		22	並
テングチョウ			2	2	1	10	4	14	18	16	7		74	多
アサギマダラ					1								1	稀
サカハチチョウ														少
ルリタテハ														少
キタテハ			2	4	4	4	4	4	1	4			27	並
アカタテハ														少
ヒメアカタテハ						1							1	少
ヒオドシチョウ														稀
ミドリヒョウモン														少

種名 日付→	5月				6月							合計	個体数	
	12	20	28	30	01	03	04	06	11	18	22			
スミナガシ					1							1	少	
イチモンジチョウ		7	15	13	5	19	16	11	7	3		96	多	
アサマイチモンジ								1				1	稀	
ミスジチョウ							1		3	1		5	少	
コムスジ		5	5	5	7	8	7	6	10	5	3	61	並	
オオムラサキ													稀	
コムラサキ							2					2	少	
ゴマダラチョウ		10	10	5	2	12	8	9	6	1		63	並	
ジャノメチョウ													少	
ヒメウラナミジャノメ		7	9	8	10	9	15	11	15	9		93	多	
ヒメジャノメ										1		1	少	
コジャノメ													少	
クロヒカゲ		1	2		4	3	1	2	5	2		20	並	
ヒカゲチョウ				3	7	11	15	13	15	35	15	114	多	
サトキマダラヒカゲ		2	5	14	8	14	17	16	15	18	20	5	134	多
ゴイシジミ		3	2	3		1	2					11	少	
ウラギンシジミ				1								1	少	
ベニシジミ		2	2							5	1	10	並	
ムラサキシジミ										1	1	2	少	
トラフシジミ						1						1	少	
ウラゴマダラシジミ			2	15	14	15	22	17	3	1	4	93	多	
ミズイロオナガシジミ						2	2	8	7	5		24	並	
アカシジミ			14	3	38	8	3	10	6	8	7	97	多	
ウラナミアカシジミ					35	8	4	9	18	11	1	86	多	
オオミドリシジミ						5		1	3	3	3	15	並	
ミドリシジミ													少	
ヤマトシジミ		12	10	2	2			2	3	3	15	49	並	
ツバメシジミ		1	3			1			3	7	17	32	並	
ルリシジミ			1	2	2	2	2	3	3	1		18	少	
アオバセセリ						1						1	稀	
ミヤマセセリ													稀	
ホソバセセリ													稀	
ギンイチモンジセセリ													少	
コチャバネセセリ		3	13	8	9	10	15	4	2			64	並	
キマダラセセリ								3	1	2	1	7	並	
ヒメキマダラセセリ		2	11	6	13	15	18	6	5	1		77	多	



種名 日付→	5月				6月						合計	個体数	
	12	20	28	30	01	03	04	06	11	18			22
オオチャバネセセリ											5	5	並
ミヤマチャバネセセリ													稀
チャバネセセリ													稀
イチモンジセセリ			2		5	4	6	3	3	2	2	27	多
ダイミョウセセリ		5	16	4	14	21	18	16	8	3	2	107	多

### 調査観察を終えて

同地に於いて1990年5月12日～6月22日までの間で種類と個体数の調査を独自で行った。この時期は最も多くの蝶が発生するのに合わせての活動で今年は例年に比べて暑さも一段と厳しく蝶の発生率と個体数とも多かったと思われる。

- 1) 例年見られると思われる蝶の中でカラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、サカハチチョウ、ルリタテハ、アカタテハ、ヒオドシチョウ、ミドリヒョウモン、オオムラサキ、ジャノメチョウ、コジャノメ、ミドリシジミ、ミヤマセセリ、ホソバセセリ、ギンイチモンジセセリ、ミヤマチャバネセセリ、チャバネセセリ等を目撃観察することができなかった。これは観察地点によるものと理解している。
- 2) しかし平地でアサギマダラ、モンキアゲハ、ツマグロキチョウ、ヒメアカタテハ、スミナガシ、アサマイチモンジ、ヒメジャノメ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、トラフシジミ等はこの時期に少ないながら見る事ができた。
- 3) 個体数の多い種としてはキアゲハ、ジャコウアゲハ、イチモンジチョウ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、ウラゴマダラシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミなどが挙げられるがテングチョウは意外に個体数が多かったのにはおどろいた。又、ホソオチョウは最近誰かによって持ち込まれたが確実に観察され定着し、時期には普通に見られるがジャコウアゲハとの共有の食草から逆転減少が起きると生態系をこわすおそれがある。現にジャコウアゲハの個体数が少なくなって来ているのは少々気になるところである。
- 4) いづれにしても平地から丘陵地に見られる蝶相は日本全国でも第一級の生息地であり48種、1762頭が40日間で観察された。まだ小まめに調査すれば目撃された種は確実に増したことと思う。今後とも継続して調査活動をし、機会があれば詳細に分析し報告したいと考えている。

(しもだ まさひろ ☎330 大宮市東大成町2-690-1 OSKビル)

.....

## 音楽の中の虫たち (1)

碓井 徹

.....

今から20年近く前のこと、地方の大学に席をおいていた私は、帰省して浦和の自宅に戻るたびに、そこから歩いて15分ほどの所にお住まいの当会の古くからの会員(当時は、まだ『埼玉蛾類談話会』であった)である田島茂さんのお宅にお邪魔して、氏の膨大なレコードコレクションの中から様々なクラシック音楽を聴かせていただきながら、きわめて美しく展翅され、整然とドイツ箱に並べられた内外のチョウの標本を見ることが大きな楽しみであった。私自身のクラシック音楽への傾斜は、大学でマンドリンクラブにはいってギター三昧の学生生活を送るようになってから始まったものなので、いわゆる古今東西の名曲といってもどの曲が誰の作曲になるものかチンプンカンプンであったが、それでも大きなスピーカーからゆったり流れる室内楽に耳を傾けつつ美しいチョウの標本を眺めるというのは、実に心地よいひと時だった。田島さんのお好みがフランス近代の作品なので、ドビュッシー、ラベルは随分聴かせてもらったし、例のユキワリツマキチョウ(ツマキチョウとクモマツマキチョウの自然雑種)の標本を手にして眺めながらサティ(ここ数年来流行っている)を聴くという贅沢も、すでに20年近く前に味わっていた。

何回目かの、ゆったり豪華なひとときを楽しませていただいていたある晩のこと、ふとしたことから『鳥を題材にした音楽』という話になり、すでに2年ほど音楽漬けの大学生活を送っていたおかげで、ヴィヴァルディやラモーといった作曲家たちの鳥をモチーフにした作品のいくつかは頭に浮かんだものの、この話題から当然の流れのように『虫を題材にした音楽』へ話が移行すると、私は有名な“熊蜂は飛ぶ”ぐらいしか思い出せず、あとは小学校で習った“赤とんぼ”や“せみ”、大学のコンパで歌っていた“てんとう虫のサンバ”などのメロディが断片的にグルグルと頭の中を駆け巡るだけで、完全にギブアップの状態であったが、田島さんも、「虫のことを扱った曲は本当に少ないネェ」とポツリとつぶやいて、そしてこの話は終わってしまった。「田島さんがそういうのだから、本当に虫を題材にしたクラシック音楽は少ないのだろう」と納得はしてみたものの、この言葉は妙に残り、いつの間にか「虫が登場するクラシック音楽を集めてみよう・・・」という事をボンヤリと考え始めていた。

この晩からすでに17年が過ぎ去ってしまった。この間、何かのきっかけがあるたびに『虫を題材にした音楽』を気にはみたものの、「やはり非常に少ない」というのが現在の実感である。おそらくは、西欧人の“昆虫観”も深いところで関係しているのであろうが、いわゆるクラシック音楽を作曲する際に、虫をモチーフに使う、という発想そのものが少ないのだろうと考えられる。この理由は、いずれこの連載の中で取り上げていきたいと思うが、これから、この『虫を題材にした音楽』を毎回少しずつ紹介していきたいと思う。まず、連載初回の今回は、つい最近手にいれた楽譜から紹介する。もしかしたら、トンボを扱った曲はこの1曲だけかも知れない・・・と、思いつつ.....

## ◆ The Dragonfly op.27 no.3

## Sudenkorento

Sländan – Libelle – The Dragonfly

SELIM PALMGREN, op.27 no.3

Veloce

*p sempre legg.*

- ◇ 作曲：SELIM PALMGREN (1878-1951)
- ◇ 楽譜：FINLANDIA -Finnish Piano Pieces-, FAZER MUSIIKKI OY HELSINKI F.M.07876-6
- ◇ 録音：CD:[北歐の抒情シリーズ, パルムグレン&エンゲルンド/名曲集, 館野泉] など

☆【作品について】フィンランドのピアニスト兼作曲家セリム・パルムグレンによる、ピアノソロのための演奏時間2分に満たない小品。ご覧のように、2拍子と3拍子が入り交じった変拍子の軽快な曲で、1906年に発表された『17部の組曲 作品27』の中の第3曲にあたる。

楽譜は、“FINLANDIA” と題された、19世紀後半から20世紀中頃までに発表された(副題にもある通り)フィンランドの作曲家たちによるピアノ小品29曲集に収められていた。この曲集は1989年の出版のようであるが、“The Dragonfly” そのものはこれが最初の出版ではないらしく、楽譜1ページ目の下に《 © 1912 A. E. Lindgren, Helsinki 》とある。作品27としてまとめて出版されたのかも知れないが、そのことについては未調査である。この楽譜は銀座ヤマハで入手した。録音は、上に紹介したCDのほかにも、数人のピアニストによる録音(CD)が現在入手できるようだ。

(うすいとおる ☎362 上尾市壺丁目454-3)

## 寄 せ 蛾 記 59号 目 次

小野寺 博昭 : 南房総から (4 最終回) . . . . .	1094
市川和夫・川名美佐男 : スマトラ島の蝶の記録 . . . . .	1099
神久保美津夫 : 所沢市三ヶ島のホソオチヨウ健在 . . . . .	1100
雛 倉 正 人 : 東京都文京区のカメムシ . . . . .	1101
(江村 薫) : 夏季宿泊談話会の報告 . . . . .	1102
小 堀 文 彦 : 北本市でウスイロコノマチョウを採集 . . . . .	1103
荻 島 和 美 : 与野市でウスイロコノマチョウを採集 . . . . .	1104
内 田 正 吉 : 埼玉県におけるシブイロカヤキリモドキの記録 . . . . .	1105
斉 藤 洋 一 : 比企郡川島町でオオキトンボを採集 . . . . .	1106
山 崎 浩 : 浦和市におけるテングチョウの採集記録 . . . . .	1107
小 田 博 : 埼玉県未記録のカミキリムシ4種 . . . . .	1107
下 田 正 廣 : 浦和市秋ヶ瀬周辺に於けるミドリシジミの発生状況 . . . . .	1108
雛 倉 正 人 : 東京都心部におけるキイロゲンセイの採集記録 . . . . .	1111
利根川 雅実 : ミヤマクワガタの矮小個体の記録 . . . . .	1112
利根川 雅実 : エレベーターに乗ったアオスジアゲハ . . . . .	1112
利根川 雅実 : 高層住宅で夜間採集した蝶 . . . . .	1113
(市川和夫) : 『テグレット技術開発』からパーソナルコンピューター寄贈される . . . . .	1113
下 田 正 廣 : 所沢市三ヶ島の5・6月の蝶 . . . . .	1114
碓 井 徹 : 音楽の中の虫たち (1) . . . . .	1117
会誌送付先のご紹介 . . . . .	1119
会 報 . . . . .	1120
会員名簿大整理	